

星野地域協議会 将来ビジョン

1. 目標とする将来像

お宝たくさん『星野村』～里山の癒しで都市農村交流を推進しよう～

2. 施策の方向性及び具体的取り組み

| 柱 | 項目 | 施策の方向性 | | | 具体的取り組み (取組を行う場合に、活用を考えている事業があれば、記載してください。) | | | | |
|---|-----------------|------------------------|-----------|--------------|--|--|---|--------------------------------|---|
| | | 内容 | 現状 | 目標 | 施策内容 | 具体的な実施内容 | 直売所の機能 | 予算の確保 | |
| 【農林産業を守る】 農林産業の効率的かつ継続的な体制の整備に関する事 | 直売所販売量の確保 | 直売所の入荷量(販売量) | 1 t/月 | 1.5 t/月 | 直売所による集荷体制の整備 | 2回/週、直売所の車両で集荷する | ② | 手数料から捻出 | |
| | 組織的な農業生産体制の整備 | 支援回数・地区数 | 回数 地区数 | 0 0 | 8 5 | 地域内の農林業作業支援体制を整備 | 都市部住民との協働活動により、地域内の共同活動を支援することで、人材育成と営農の継続性を両立 | ① | 中山間地域活性化応援事業(サポート体制の構築)(県単) |
| | 農林作業の請負 | 作業面積・回数 | 面積 回数 | 0ha 0回/年 | 1ha 4回/年 | 協議会による農林作業の請負 | 協議会が、各集落の農林作業(日本型直売対象分)の一部を受託、または作業者を確保して実施する | ① | 日本型直売事業 |
| | 販路開拓 | 外食産業への定期販売 | 米 | 0 t | 1 t | 地域で生産した米等を地域外の飲食店へ定期販売 | 直売所が仲介者となって、地域の農林産物を都市圏の飲食店等へ定期的に販売する | ② | 直売所を拠点とした地域の元気づくり事業(県単) |
| | 地域特産物の開拓 | 地域特産物の生産 | 野菜 | 0 t | 1 t | 高冷地の野菜としてかぶ等を生産 | 地域農家により、ズッキーニ、かぶ、ミニ白菜などを新たな地域農産物として生産し、直売所にて販売する | ②③ | 市町村の単独事業 |
| | 遊休農地の活用 | 協議会による遊休農地利用面積 | 田 畑 | 0ha 0ha | 1ha 1ha | 情報発信による利用者の確保 | 直売所にて、耕作放棄地の位置、面積、非農地としての活用も含めた活用例、整備方法などの情報を発信する | ⑤ | 直売所を拠点とした地域の元気づくり事業(県単) |
| 【農林業者の所得を増やす】 農林産業を中心とした地域産業による所得を増やす施策に関する事 | 農林産物の付加価値創出 | 茶の実油 | 0円/年 | 100万円/年 | 茶の実を利用した油製品 | 遊休農地の茶の実を収穫し油を絞る。食用としていたものを化粧品類として商品開発し販路を拡大する | ②③ | 直売所を拠点とした地域の元気づくり事業 八女市単独事業 | |
| | | 乾燥野菜 | 0円/年 | 50万円/年 | 乾燥野菜を利用した商品の開発、販売 | 粉砕した乾燥野菜を利用して、野菜ダシ、野菜スープ、ふりかけ等の商品を開発し販路を拡大する | | | |
| | | 味噌 | 0円/年 | 30万円/年 | 手作り味噌の利用 | フリーズドライ、チューブ入り味噌など新たな販売方法を検討し、販路を拡大する | | | |
| | | 菓子等 | 0円/年 | 20万円/年 | 地元食材を使った商品の開発、販売 | 抹茶等の地元食材を使った、パフェや生チョコ等の商品を開発・販売を強化する。(焼き菓子・冷凍ケーキ、ピザ・甘茶プリン) | | | |
| | | 果樹 | 0円/年 | 50万円/年 | ゆず、カボスの利用 | 平成26年に500本植栽したゆず、カボスを使った商品を開発する | | | |
| | | 地域特産物の販売単価向上 | 米 | 300円/kg | 350円/kg | 棚田で採れた米を棚田米としてブランド化し販売 | | | 直売所で販売している棚田米をブランド化し、各種商談会でバイヤーと交渉し、外食産業等へ高値で取引する |
| 【地域の人口を増やす】 地域集落の定住や交流人口を増やす施策に関する事 | 観光資源の活用 | 観光資源の散策ツアー(直売所受付) | 0人 | 300人 | 地域の観光資源をめぐらせる散策ツアーの実施 | 直売所を基点に、地域の観光資源を散策するツアーを実施する | ④⑤ | 検討中 | |
| | 農林業体験 | 農業&調理体験の企画・実施 | 0人 | 100人 | イチゴ狩り体験と調理体験を併せた企画の実施 | 農業体験で収穫したイチゴを、直売所で加工・調理し、実食する企画を実施する | ④⑥ | 直売所が独自で企画 | |
| | | そば刈り体験とそば打ち体験を併せた企画の実施 | 0人 | 30人 | そば刈り体験とそば打ち体験を併せた企画の実施 | そば刈り体験とそば粉を使ったそば打ち、調理し実食する企画を実施する | ④⑥ | 直売所が独自で企画 | |
| | | 農業体験ツアーの実施 | 0人 | 200人 | 農業体験ツアーへの申し込み | 県等が実施する農業体験ツアーに申し込み、「ふくおか応援ファミリ」等を地域のファンとして取り込む | ④⑥ | ふくおかの美味しんぼ(農業体験ツアー) | |
| | 地域に定住する新規就農者の確保 | 新規就農者の確保 | 0人 | 3人 | 地域定住による新規就農者の募集 | 協議会で就業体制と生活基盤を整備し、新規就農者を募集する | ①⑥ | 農地の整備や空き家改修等に關する補助事業 | |
| 情報発信 | 発信情報の一元化 | 0件 | 5件 | 関連情報を一元化して配信 | 就業情報と空き家情報を一元化し、直売所やHPで掲載 | ①⑥ | 直売所を拠点とした地域の元気づくり事業(県単) | | |
| 地域協議会の継続的な運営方法に関する事 | 補助事業の活用 | 滞在型農園(クライナガルデン) | 0件 | 1件 | 滞在型農園設置・運営 | 国事業を活用し整備 | ④⑤⑥ | 農山漁村振興整備交付金(直採事業)の活用検討 | |
| | 観光等の企画運営 | 観光資源の散策ツアー(直売所受付) | 0円/年 | 20万円/年 | 地域の観光資源をめぐらせる散策ツアーの参加費徴収 | 地域の観光資源を散策するツアーの参加費を充てる | ④⑤ | 旅行代理店とのタイアップを模索 | |
| | 直売所の売り上げを活用 | 直売所の売り上げを活動経費に充当 | 0円/年 | 20万円/年 | 直売所の管理委託業者の活動経費に加える | 協議会の活動を、直売所の管理委託業者の経費でまかなう | | | |

3. 実施計画

2. の具体的取り組みに係る5年計画を記載してください。

| 施策内容 | 1年目(平成27年度) | | 2年目(平成28年度) | | 3年目(平成29年度) | | 4年目(平成30年度) | | 5年目(平成31年度) | | ポイント |
|--|-------------|---------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|---------|-------------|---------|---------------------------------------|
| | 上期(4月) | 下期(10月) | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | |
| (1) 農林産業の効率的かつ継続的な体制の整備に関する事 新たな地域特産物の生産(ズッキーニ、かぶ、ミニ白菜など) 地域内の農林業作業支援体制を整備 | | 0.2t | | 0.4t | | 0.6t | | 0.8t | | 1.0t | 新規品目の栽培技術向上(普及C等) |
| (2) 農林産業を中心とした地域産業による所得を増やす施策に関する事 6次化商品の新規開発 | | | | 250千円 | | 500千円 | | 1,000千円 | | 1,000千円 | 茶の実250kgで6kg精製。茶の実単価が課題(参考)3,500円/25g |
| (3) 地域集落の定住や交流人口を増やす施策に関する事 移住定住の促進(直売所HPによる交流会や就農相談など地域情報を発信) 農業体験ツアー実施 | | | | 3件 | | 5件 | | 5件 | | 5件 | 情報発信ツールとして直売所HPを充実 |
| (4) 地域協議会の継続的な運営方法に関する事 直売所を拠点とした観光資源散策ツアーの実施など 滞在型農園(クライナガルデン)の実施 | | | | | | | | | | | 旅行代理店交渉 滞在型農園の候補地選定など |

(参考) 現状の把握

| 地域の強み(よいところ) | 地域の弱み(課題) |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 「ましのむら」の知名度の高さ・響きのよさ『星のむら、Village of STAR、明星村』 移住希望者が市内でも比較的多い 素晴らしい自然・景観(星、山、空、棚田) 温泉、窯元、文化施設、ホテル、キャンプ場などが整備されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 「ましのむら」は聞いたことがあるけど、どこにあるか知らない、行ったことが無い 九州北部豪雨災害以降に「少子高齢化、空き家の増加、雇用の減少」が加速 移住希望者が多くても、貸して貰える空き家が少ない 基幹作物である茶の価格低迷 農業体験を希望する声はあるが、拠点施設及び受け入れ体制が無い 直売所や加工所の指定管理が切れる予定であり、今後の運営が課題となっている |